

詩誌
極微

vol. 4

佐野 豊

小田原 慎治

篠田 翔平

森田 直

TAKE
FREE

詩誌 極微

vol.4

目ら

佐野 豊

彼らから

きみたちへ

そこから僕たちに

そんな風に休日

少しずつ羽根をのぼして

羽根をやすめて

ことばのいちまいいちまいは

どこまでとんでゆけるかな

あなたの生きてる目によって

ぼくもしたためる

キリン

佐野 豊

とりわけ

キリンは面白味が感じられて
一番長く見ていた

動物園へ きみと行った日

見て回ったことより

休憩所でのビール

動物はみんな

寝て食べて鳴いていたけど

僕は酔っていた

ポワンとした頭で

きみと

一番惹かれたキリンを思う

存在がユニークなのは

おんなじだとしても

あの動きは真似出来ない

優雅なのか

落ち着かないのか

釈然としないあの右往左往

その

キリンの運動のなかに

僕がきみに

うまく言えないことのように

行つては戻つての：

そういえばキリンも二頭いて

キリンの恋人

と

どこかで

この休日の名付けた

日帰り

佐野 豊

明くる日

再三という名前の親友と

日帰りの旅をした

彼は言いたいことがあっても

腹のなかにおさめるたちで

ちようど僕とは対極にあった

手厳しさから漏れ出すやさしいに

ジュースの一本もご馳走したくなる

はなの頭を赤くして

汗を流す彼と

とんぼ返りで帰る

日帰りの旅をした

ルノアールにて(午前中)

佐野 豊

ルノアールに高いけどきた。お二階も奥もあって、少し迷う。吉岡実みたいなお爺さんや、清岡卓行みたいなおじさんが既について、すごいな、と心のなかで思う。モーニングはA、B、C、Sの四つから選べる。スペシャルにだけ卵がなく、塩をふるものがない。鞆には、携えた本や筆記用具が入ってはいるものの、いつ取り出すかは口にすることじゃなかった。そんなことの集合体。だんまりの午前中に、ここにて。そんな風にしたためるべきものがあつたはずだ。ウェイターが実際にSを運んでくる。清岡が電話をしている。混線ですね、ガリフレイン。吉岡はすくつと立ち上がった。

9歳

篠田 翔平

9歳の坂を

3年後のあなたがのぼっている。

わたしの窓からあなたはみえない。ねころんで

とりやむしやひこうきを見ている。

中村くんの自転車がみえて

とりと

どちらが高いか

まつげのまま

のぞきこんで測っている。

ここからは見えない

あの日の坂を

せみしぐれが包んでいて

耳ではあなたをみわけることができない。

数はひとつ。

そのことをたよりに

折りまげたゆびをなんどもひらいては折る。

ふたつがきたら

あなたではない。

大学ノートに「雨」とかいて

また

ふたつやみつつのあなたでないものが通る。

その日は

あなたの窓にも雨がふっている。

あなたの窓からは

わたしが見えない。

中村くんの自転車がみえて

水滴がおもさとして自転車にくわわることを

あなたは

まだ濡れていない手でにぎり返してみる。

それから手放して

わたしがいることを思う。

けれどわたしの窓がなにによって濡れているか

そのことまではたどりつけなくて

手放してしまう。

とりやむしやひこうきを見ている。

えんぴつの「たなかすみれ」があつて

消しゴムで消して押しこんでみる。

教室のうしろには鳥かごがあつたけど

生きていた鳥と

生きている鳥がならぶと

みわけがつかないことの方がおおい。

どちらかは見えている。そのことを証左とすればいいよ、だれかがやさしく

耳打ちすることと夢とわかつて

「たなかすみれ」もそこでついえる。

坂があつて

濡れている。

福音

小田原 慎治

イエスが宿で休んでいると、社員がやってきて、「毎日が忙しく、成長するための時間が足りないのだ」と訴えた。イエスは寝返りながら言われた、「お前はどのように成長するつもりなのか」。社員は「ペエ・デエ・セエ・ア」と答えた。そのときイエスは、社員がひどく汗を流しているのに気づいたので、水差しを渡そうとした。すると社員が断ったのでイエスが理由を聞くと、こう言った、「こうしている間にも貴重な時間は過ぎ去っていく。水などいらぬ。さあ、どうすればよいのだ」。イエスは押し返された水差しを不機嫌そうに枕もとのテーブルに戻して言われた、「わたしは眠ることと成長する」。

記録

小田原 慎治

李君と工藤君来訪訴求。自治会の議事録の作成順について、議長が分担から外れている現状は不公平である由。さらに前の週の会合では作成予定者が病欠という理由で、議事録作成自体が実施されなかったことを引き合いに作成意義そのものに対する疑義のようなものを開陳。自分は、議長が議事運営と議事記録を並行させることの困難と、議事録の重要性を、一般論として意見した。その後三人で餅を焼いて食す。李君の子供時代の話。聞いていて楽しくなる。韓国は面白い国である。

友好の家

小田原 慎治

どうにかやってきた。ここが友好の家だ、

駐車場の入り口に深くぼみがあり、

そこを車輪が必ず通り、泥水のしぶきが上がる。

悪夢の

民主党政権では

かなえられなかったすべてをここでかなえてあげる

ここが友好の家だ

泥水のしぶきが上がる

司馬

小田原 慎治

ラブレターをもらった

あなたを 好きです わたしはかわいい 女です
ふたりでおはなし してみたいです

司馬はひどいことをされて

男女のことは終わっているの

わかりました お会いします わたしは男です(が)
気軽な返事をした

屈辱ではなく安堵がはつきり心に浮かんだ

こんなふうになにいままで

答えたことがあつたらうか？

虫さされ

森田直

蚊に食われてから

悩みごとが一部分

欠落してしまった

苦しもうと気張っても

どうもつじつまがあわない

蚊に食われてから

身に覚えのない不安で

夜中にときどき

飛び起きるようになった

どこかがかゆい

どこを搔いてもかゆい

忘れてしまった

悩みごとが

どこかで膨れ上がっている

誰かが必死に

掻きむしろうとして

きつと見つからない

朝

森田 直

雨みたいな音がして

窓を開けると

景色が洗い流されている

青くも白くもない

湿った光が満ち満ちて

むせかえるほど匂う

ここには来たことがある

窓を閉めるための

手がない

民家

森田 直

古い民家を見て思う

取り壊してしまえと思う

新しいマンションは清潔で

生活の口臭を吐き出さない

窓からもれる黄ばんだ灯りから

湿った人間の匂いがする

やがて根を張り はびこってしまふ

新しいマンションには

根がない

そのどちらにも住まない

プロフィール

佐野 豊 (さの・ゆたか)

1984年生。図書館員。最近は、ニックドレイクばかり聴いている。ディスクユニオンに行くのが楽しみ。佐野書房から極微の付録として、何かを付ける夢を見た。

小田原慎治 (おだわら・しんじ)

1983年生。むかし山城新伍さんに握手して頂いたことがあります。落ち込んだとき、自分のことを励ましてくれる思い出のひとつです。

篠田翔平 (しのだ・しょうへい)

1989年生。詩集を出す予定(と、ずっと言っている)。

森田 直 (もりた・なお)

1989年生。横浜市出身、東京都在住。会社員。雑誌やWEBの投稿欄に、たまに登場します。この間、プロ野球チップスのラッキーカードが当たりました。およそ20年ぶりのことです。

編集後記

純喫茶のナポリタンは少し焼きが入っていて細麺がいい。当然のように粉チーズとタバスコを出してくれれば、多少狭くて居心地が悪くても損はしない。そこで大抵求めた本かCDを撫でたりして、ゆっくり過ごす。最近はリュックにPCも入っていて、たまには何か書いているときもある。今日は岩波文庫のクアジーモド全詩集に、ニックドレイクの Made To Love Magic。次はどこまで足を伸ばそうか。これも休みの日のひとこま。そしてすぐに日が暮れる。(佐野)

しし きよくび 詩誌 極微 vol.4

発行人——佐野 豊

発行所——佐野書房

発行日——2019年9月15日

ご意見・ご感想

ご感想をお待ちしております。四人にとっての励みになります。

以下のメールアドレスか、右のQRコードから送れます。

shishi.kyokubi@gmail.com



バックナンバー

ホームページにバックナンバーをPDFで公開しています。

<https://shishi-kyokubi.jimdofree.com/>



